

犬の遠足をしませんか？

村井俊治

犬の仲間ができて公園で放し飼いを始めているうち、私は仲間に高尾山に犬の遠足を提案しました。実は八王子市の自宅は高尾山に近いので、コットンを車に乗せて高尾山に良く連れて行きました。鎖を放しますので、人が通らない裏道を探しました。山道は狭いので、ハイキングをしている人たちは犬をよけられないのでまともに嫌な顔をします。私は林道のような人が来ない山道を大分探しておいたのです。

その頃家内がボランティアでビンやカンの回収をしておりましたので、回収用のバン車がありました。犬仲間 7 匹をバン車に入れて、人間はそれぞれ車で高尾山に向かいました。人間だけでなく、犬の弁当も持参します。犬はどこに連れて行かれるか分かりませんので不安だったと思います。仲間と一緒にいるのに神妙な顔つきでした。目的地に着いて飼い主の顔を見るととても喜びました。

山道に入ると犬達は一目散に前に走って行きました。道がカーブして我々飼い主の姿が見えなくなると必ずこちらを振り返ります。しばらく姿が見えずにいると猛スピードで全犬が戻ってきます。そしてそれぞれ飼い主の横に寄り添います。水を上げたりオヤツを上げたりするとまた山道を前に走っていきます。斜面を駆け下りたり、登ったりします。普通の 3 倍は運動している感じです。犬達は生き生きします。こちらも嬉しくなります。

昼ごはんのときは大騒ぎです。それぞれ飼い主の横にいて、弁当を武者ぶり食べます。お腹がすいているのでしょうか、リンゴの皮までたべます。決して他の犬の食事を取ろうとはしません。誰かがよその犬に何かを上げようとしても、先ず飼い犬に同じ物を上げないと食べません。

仲間の犬たちの遠足は 2 回しました。コットンだけの遠足は何度もしました。遠足をして気づいたことは、遠足はとてもよい訓練というか教育になることです。ますます言うことを聞くようになりました。ほかの飼い主も同じ事を言います。行きの車では喜んではしゃぎ、運転する私を後ろから舐めまわります。帰りの車では、さすがにコットンはグッタリです。別の用事で家の前に車を止めると遠足に連れて行ってもらえるかと勘違いしてはしゃぐようになりました。犬は直ぐ習慣にしてしまう性質があります。

私のコンピュータの前には、昔犬の遠足をしたときの写真が張ってあります。もう皆死んでしまいましたが、「コットン」、「チャロ」、「ハチ」、「ノン」などの顔が懐かしく思い出されます。あのとき犬たちは本当に輝いていました。きっと子育ても同じことかもしれないね。

